

中間考査をなくし、スタサブ課題を 観点別評価に。生徒の自学習習慣がついてきた

南筑高校（福岡・市立）

テーマ ▶ 観点別評価への新たな取り組み

目的 ▶ 基礎学力向上と自学の習慣作り

課題
文武両道校として多様な
進路を実現する基礎学力
の定着を図るには？

活用
単元テストや確認テスト、
反転授業の動画視聴などを
観点別評価として活用

創立100周年を越える南筑高校は、柔道、剣道をはじめとするスポーツ強豪校。進路に合わせた多彩なクラスを選ぶ「普通クラス」と競技の知識と技術を磨く「スポーツキャリアクラス」があり、多様な進路に応じた基礎学力の定着は、長年の課題であったという。

「『スタディサブリ』は到達度テストを行い、生徒が苦手分野を克服するため連動課題配信ができる。そう考えて活用を始めたのが2022年度。生徒一人ひとりにタブレットが導入された年でした。

初年度は生徒も教員も課題配信に慣れるのに精一杯でしたが、働き方改革の一環として中間考査をなくし、教員に余裕ができた23年度からは、活用方法を考える教員が増え、観点別評価にも取り入れられています。おかげで、生徒たちの自学習習慣もついてきました」と山下経男校長。

スタサブ課題を観点別評価に取り入れたのは、英語科が最初だという。

「昨年の1年生から観点別評価に加え、現在、2年生の英語でも、一学期は観点②の『思考・判断・表現』に受動態と不定詞の『スタサブ単元テスト』を入れています。中間考査1回よりは点数が取りやすいので、がんばる生徒が増えました。

観点③の『主体的…』には、週末課題の実施・終了を示す『確認テスト』の提出など、スタサブを使った自学の取り組みが評価されるので、生徒たちは、1点でも多く取るうとがんばっています。配信すれば課題をやるという習慣は、確実に身につけてきました」と、英語の半田多恵子先生

もう一人、ユニークな活用をしているのが、生物の津田純弥先生だ。

「コロナ期は自分で授業動画を作っていたので、スタサブの導入は本当にありがたいですね。講義動画は1テーマ15分程度。視聴後すぐに課題が出て、確認テストで理解度を測れるので、飽きずに予習ができると考え、動画視聴をしてみたら、反転授業を行っています。動画の視聴率は、観点③の『主体的に学習に取り組む態度』の評価に入るので、平均すると90%以上。以前なら考えられない高視聴率です。

観点①『知識・技能』には、一つの単元が終わったところで行う『単元テスト』のほか、予習で行う『確認テスト』の初回正答率を入れています。初回に限定したのは、真剣に動画を見て、『失敗できないぞ！』とテストに向き合うようになるから。予習・復習をちゃんとするようになったら、質問に困る生徒が驚くほど減りました。大きな変化です」と津田先生。

「今後は、ほかの教科でもスタサブを観点別評価に取り入れ、教員の負担を減らしながら生徒を伸ばす取り組みができるといいですね」とキャリア教育推進部長の伊佐英一郎先生も話す。

スタディサブリ活用法

観点別評価

●2年生(普通クラス) 英語コミュニケーションⅡ

知識・技能 40点	思考・判断・表現 30点	主体的に学習に取り組む態度 30点											
		授業態度	考査前チェック	課題A 取り組み状況	リスニングテスト	ノート課題	コーラスWorkbook						
考査	考査	スタサブ単元テスト	Lesson1 単元テスト	音読テスト	スタサブ取り組み	コーラスWorkbook	スタサブ取り組み	ノート課題	リスニングテスト	課題A 取り組み状況	考査前チェック	授業態度	
25	10	5	10	6	10	4	6	3	3	6	6	4	2

上の表は普通クラス2年生の一学期の観点別評価。観点②には「スタサブ単元テスト」が、観点③には、スタサブへの取り組み姿勢が評価に組み込まれた。



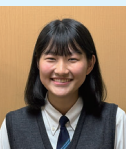
2年生の英語の授業中に行われていた不定詞の『スタサブ単元テスト』。生徒たちは、テスト直前まで先生に質問をし、真剣に勉強をしていた。「テスト終了後にはフォローアップ課題が配信されます。昨年度まではテストが終われば羽を伸ばしていた生徒たちですが、今では半数以上がフォローアップの動画を見て、解けなかった問題の説明を聞き直して復習までしているので、すごい変化だと思います」と半田先生。

●生徒たちのスタディサブリ活用法



1年生のときから得意な英語と数学を伸ばしたい、苦手な現代国語を克服したいと『スタディサブリ』を使ってきました。4月の到達度テストも手応えがあり、英語は2.3か所ミスしただけだったので、かなり成績が上がったと思います。2年生になって英語はテストや課題も増えましたが、がんばれば観点評価も上がるので嬉しいです。英文法の関先生は語源なども教えてくれて面白いし、現代国語も小柴先生の講義で長文読解に自信もてるようになりました。受験も、『スタディサブリ』があれば心強いです。(普通クラス2年・吉野蒼亜(そあ)さん)

1、2年生のときは、授業でイマイチ理解しきれなかった単元を復習したり、古典文法を覚えるときに、とても『スタディサブリ』のお世話になりました。3年になった今は、主に受験対策に使っています。先日も大学入学共通テストの模試があり、「情報Ⅰ」は1年生で習っただけなので、「全然覚えてない! どうしよう!」と、慌てて『スタディサブリ』1年生のベーシックレベル講座を見直して、なんとかなりました。一般受験をするので、これから夏休みいっぱいかけて、総復習をしていきたいと思います。(普通クラス2年・柏原映花(みはる)さん)



たので、スタサブの導入は本当にありがたいです。講義動画は1テーマ15分程度。視聴後すぐに課題が出て、確認テストで理解度を測れるので、飽きずに予習ができると考え、動画視聴をしてみたら、反転授業を行っています。動画の視聴率は、観点③の『主体的に学習に取り組む態度』の評価に入るので、平均すると90%以上。以前なら考えられない高視聴率です。

観点①『知識・技能』には、一つの単元が終わったところで行う『単元テスト』のほか、予習で行う『確認テスト』の初回正答率を入れています。初回に限定したのは、真剣に動画を見て、『失敗できないぞ！』とテストに向き合うようになるから。予習・復習をちゃんとするようになったら、質問に困る生徒が驚くほど減りました。大きな変化です」と津田先生。

「今後は、ほかの教科でもスタサブを観点別評価に取り入れ、教員の負担を減らしながら生徒を伸ばす取り組みができるといいですね」とキャリア教育推進部長の伊佐英一郎先生も話す。



写真左から
キャリア教育推進部部長
進路指導主事
伊佐英二郎先生(国語)
山下経男校長
半田多恵子先生(英語)
津田純弥先生(生物)

School Data

創立1922年／普通クラス、スポーツキャリアクラス(共学)生徒数707人(男子281人、女子426人)進路状況(2023年度実績)大学94人、短大13人、専門学校等94人、就職18人、公務員7人